

目次

仕事着

向山雅重 1

展示資料紹介

10

解説「仕事着上衣・下衣」

38

長野県内各地の仕事着と名称

44

資料目録

45

凡例

- 本書は、長野市立博物館第八回企画展「仕事着―変遷と地域性―」の解説用として作成した。
- 展示資料のうち、上衣・下衣を中心に掲載した。写真のみものは丈を採寸し紹介した。
- 陳列順位とは必ずしも一致しないが、別添出品目録と照合のうえ観覧されたい。
- 本文中敬称を省略させていただいた。
- 期間中、資料の保存上展示がえをする場合もある。

第八回企画展

「仕事着―変遷と地域性」開催にあたって

常設展示室が通史展示であるとすれば、企画展は、自然・考古・歴史・民俗の中から一つの主題を設定し、それにかかわる資料をもって主題にせまる問題解決または問題提起の展示会といえます。

当初、今回の企画展にあたって、歴史的な分野から衣服の世界をかいま見る予定で調査を進めてきましたところ、上層階級の人達が使用した小袖などの美的価値の高いものや、ハレの衣装は比較的良く残っていましたが、庶民のそれも野良着など仕事着といった生産に従事した衣類がほとんど保存されていませんでしたし、早晚消えざる運命にあることを知りました。そこで、今、博物館の企画展示の急務の課題は何なのであるかということも考慮しました結果、仕事着を民俗的分野からとり上げ、県下各地域の地形とのかかわりの中で考案されてきた仕事着を大系づけてみる必要があるかと考え、ここに第八回企画展示「仕事着―変遷と地域性」を開催した次第です。「衣」は、「食」・「住」とともに生活を維持していくための最低必要な要件とされています。もともと衣類は、着物・被り物・履物などのように身体またはその一部を覆うことにより、保温や外からの害から保護する役割がありました。また一方で用途に応じて様々な形態・文様・染色などの多様性、髪型・装身具などの装飾性があることもこの分野の特色です。この「衣」の中で仕事着の占める使用領域は、普段着などの関係衣類を含めますと大きな部分になることはまちがいありません。しかし、消耗品的性格が強く、ツギアテ用の布をとったり雑布をつくるなどの再利用として使われましたし、この衣類自体の商品価値が低かったため、保存されなかったものと考えられます。

今回の企画展は、地味な主題になっていますが理解を深めていただくため、人形を使用した立体的展示と、仕事着の歴史と利便性をみていただくため、重要文化財「職人盡絵屏風」や「木曾式伐木運材図会」を展示し、問題提起をする意味から、本図録を刊行いたしました。大方の参考資料としてご利用いただければ幸甚に存じます。

文末で誠に失礼とは存じますが、喜多院・長野営林局・向山雅重先生からは並々ならぬご理解をいただき、また県下各博物館施設をはじめ、多勢の方のご指導・ご協力をいただきました。衷心より感謝申し上げます。